

小学校家庭と中学校技術・家庭「家庭分野」の

小・中連携と指導実践例

- 小学校家庭と中学校技術・家庭「家庭分野」の連携とその実践を目指して
- 小学校家庭と中学校技術・家庭「家庭分野」の学習指導系統一覧
- 小学校家庭と中学校技術・家庭「家庭分野」連携の指導実践例



小学校家庭と中学校技術・家庭「家庭分野」の連携とその実践を目指して

平成20年3月に改訂された学習指導要領において、小学校家庭は、これまで8つの内容で構成されていたものが4つの内容構成に改善されました。同様に、過去、多様な変遷を遂げてきた中学校技術・家庭「家庭分野」においても、今回は大きく2つの内容で構成されていたものが4つの内容構成に改められました。

下図のように、旧構成においては少なくとも小・中学校「家庭」の構成上の連続性は見受けられませんでした。新構成では考え方が大幅に整理され、内容の体系化が図られたこととなります。これはいうまでもなく、小学校家庭と中学校技術・家庭「家庭分野」の内容の系統性や連続性を重視し、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力と実践的な態度を育成する観点から、それぞれ改善された結果です。

これにより、小学校と中学校の内容構成がA～Dの同一の枠組みとなることから、小学校では、中学校での内容を見通して、小学校の学習に求められる基礎的・基本的な知識および技能や、生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度が着実にはぐくまれることを目指します。

小学校家庭の内容構成の改善



中学校技術・家庭「家庭分野」の内容構成の改善



内容構成がA～Dの同一枠組みとなったことにより、小学校家庭と中学校技術・家庭「家庭分野」における内容の円滑な接続が可能になりましたが、肝心なのは、小・中学校の指導者が連携して体系化された改善の主旨を生かし、いかに教育効果を高めていくか一です。実践に際しては、小・中のA～Dの内容が、具体的にはどのように系統的かつ連続性をもっているのかなどについて、双方の指導者が互いに理解しておくことが極めて重要です。

小・中の連携を効果的に行う方策としては、具体的には次のようなことが考えられます。

① 地域の小学校家庭科と中学校技術・家庭科の指導者が集まって、地域や児童の実態および発達段階を考慮しつつ、小学校5年から中学校3年までの5年間で育てたい「子ども像」や、各学年での指導の重点のおき方など、効果的に指導する手立てについて話し合うことが大切です。

そこでは、小・中学校の指導者がそれぞれの年間指導計画を持ち寄り、話し合いの資料にすることによって、相互の指導観や教材観の理解が深まり、5年間の系統的な指導についても話し合うことができます。

② 互いに授業参観をしたり、場合によっては指導者の交流授業などを行ったりすることによって、小・中の連続性はいっそう深まっていくものと思われます。

③ 適宜、小・中学校の合同研究会を実施するのも、系統性や連続性のある指導を持続的に行うために大切なことです。

このほか、具体的には様々な工夫が考えられますが、何よりもまずは、前述したように地域の小・中学校の指導者同士の話し合いの場を持つことが肝要でしょう。



次ページ以降に、〈小学校家庭と中学校技術・家庭「家庭分野」の学習指導系統一覧〉や〈小学校家庭と中学校技術・家庭「家庭分野」連携の指導実践例〉を示しました。小・中の連携を考える際の参考になれば幸いです。

小学校家庭と中学校技術・家庭「家庭分野」の学習指導系統一覽

小学校家庭 5 年	小学校家庭 6 年
<div data-bbox="151 286 534 353" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 学習指導要領の目標 </div> <div data-bbox="151 387 1536 533" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>教科の目標 衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にすることを旨とし、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。</p> </div> <div data-bbox="151 544 1536 790" style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <p>第 5 学年及び第 6 学年の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、自分の成長を自覚するとともに、家庭生活への関心を高め、その大切さに気付くようにする。 (2) 日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、身近な生活に活用できるようにする。 (3) 自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。 </div>	
<div data-bbox="151 857 331 925" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 学習内容 </div> <div data-bbox="151 952 1536 996" style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> A 家庭生活と家族 </div> <div data-bbox="151 1019 1536 2083" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <div data-bbox="151 1019 794 1160" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(1) 自分の成長と家族について、次の事項を指導する。 ア 自分の成長を自覚することを通して、家庭生活と家族の大切さに気付くこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンス ○自分の成長 ○家族の 1 日の生活を見つめる ○家族とのかかわり ○家族の大切さ </div> <div data-bbox="151 1305 794 1447" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(2) 家庭生活と仕事について、次の事項を指導する。 ア 家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり、自分の分担する仕事ができること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族の一員 ○家庭の仕事のいろいろ ○仕事の協力と分担 ○仕事の手順 </div> <div data-bbox="151 1592 794 1771" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(3) 家族や近隣の人々とのかかわりについて、次の事項を指導する。 ア 家族との触れ合いや団らんを楽しむ工夫をすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○楽しい団らん（家族とのふれ合い） ○お茶の入れ方 ○簡単なおやつ（りんごの皮むき） </div> <div data-bbox="890 1137 1536 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(2) 家庭生活と仕事について、次の事項を指導する。 ア 家庭には自分や家族の生活を支える仕事があることが分かり、自分の分担する仕事ができること。 イ 生活時間の有効な使い方を工夫し、家族に協力すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の生活時間の使い方 ○自分の生活時間の見直し ○家族と共に過ごす時間づくり </div> <div data-bbox="890 1541 1536 1720" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(3) 家族や近隣の人々とのかかわりについて、次の事項を指導する。 ア 家族との触れ合いや団らんを楽しむ工夫をすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家族との食事づくり、楽しい食事 ○家族や周囲の人に感謝の気持ちを伝える工夫 </div> <div data-bbox="890 1899 1536 2011" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>イ 近隣の人々とのかかわりを考え、自分の家庭生活を工夫すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○近隣の人々とのかかわり ○地域の環境 ○地域で決められたごみの分別 ○家庭排水、そう音 </div> </div>	

中学校技術・家庭「家庭分野」(1～3年)	備 考 (内容の取扱いなど)
<div data-bbox="252 286 639 353" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学習指導要領の目標</div> <div data-bbox="252 383 896 680" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>家庭分野の目標</p> <p>衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。</p> </div>	<p>㊦ 小学校で指導する基礎的・基本的な知識・技能が中学校の学習に発展していくものとして明確に意識され、着実な定着につながることを目指している。</p> <p>㊧ 家庭分野の学習は、小学校家庭科の学習を基盤として発展させるものであり、その連続性と系統性を重視しながら指導することが大切である。</p>
<div data-bbox="252 853 435 920" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">学習内容</div> <div data-bbox="252 949 896 1016" style="background-color: black; color: white; padding: 5px; text-align: center;">A 家族・家庭と子どもの成長</div> <div data-bbox="252 1016 896 1160" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>(1) 自分の成長と家族について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること。</p> </div> <div data-bbox="252 1182 896 1326" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>(2) 家庭と家族関係について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域とのかかわりについて理解すること。</p> </div> <div data-bbox="252 1348 896 1460" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>イ これからの自分と家族とのかかわりに関心を持ち、家族関係をよりよくする方法を考えること。</p> </div> <div data-bbox="252 1482 896 1626" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>(3) 幼児の生活と家族について、次の事項を指導する。</p> <p>ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。</p> </div> <div data-bbox="252 1648 896 1760" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>イ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解すること。</p> </div> <div data-bbox="252 1783 896 1895" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>ウ 幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できること。</p> </div> <div data-bbox="252 1917 896 2060" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>エ 家族又は幼児の生活に関心を持ち、課題をもって家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践できること。</p> </div>	<div data-bbox="979 936 1437 1039" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>注記： 小学校5・6年の枠囲みの下の小文字は、主な学習内容を表す。</p> </div> <p>㊦ 5年の(1)ア 4年までの学習を振り返り、2学年間の見通しがもてるようにするためのガイダンスとして扱い、またA～Dの学習を貫く視点として各内容とも関連させて取り扱う。</p> <p>㊧ (1)ア 小学校家庭科の学習をふまえて、3学年間の見通しをもたせるためのガイダンスとして扱い、またA(2)・(3)の導入として関連を図って取り扱う。</p> <p>㊦ (2)ア・イ、(3)ア・イ これらについては、5・6年ともB～Dの衣食住等の学習とも関連づけて取り扱う。</p> <p>㊧ (1)～(2) これらの内容の指導に当たっては、小学校で学習した「A 家庭生活と家族」の内容(1)・(2)・(3)に関する基礎的・基本的な知識と技能などを基盤にして、適切な題材を設定し、相互に関連を図って総合的に展開できるように配慮する。</p> <p>㊦ 注記 中学校で、二本線囲みの内容は選択事項を表す(3学年間で1または2事項を選択する)。</p>

小学校家庭 5 年

小学校家庭 6 年

B 日常の食事と調理の基礎

(1) 食事の役割について、次の事項を指導する。

ア 食事の役割を知り、日常の食事の大切さに気付くこと。

○食事の役割（健康・成長・活動・人とのふれ合い）

イ 楽しく食事をするための工夫をすること。

○楽しい食事 ○食事のマナー（食事のあいさつ・食べ方・会話など） ○茶わん・はしの持ち方 ○お茶の入れ方

(2) 栄養を考えた食事について、次の事項を指導する。

ア 体に必要な栄養素の種類と働きについて知ること。

○五大栄養素とそのはたらき

イ 食品の栄養的な特徴を知り、食品を組み合わせるとる必要があることが分かること。

○食品の3つのグループ分け ○食品の体内ではたらき ○食品の組み合わせ ○栄養のバランスのよい食事

(3) 調理の基礎について、次の事項を指導する。

ア 調理に関心をもち、必要な材料の分量や手順を考えて、調理計画を立てること。

○ゆでたまご、ゆで野菜サラダ、ごはん・みそしるの調理計画、材料と分量、用具・器具・食器、調理手順

イ 材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けが適切にできること。

○ゆでたまご、ゆで野菜サラダ、ごはん・みそしるの材料の洗い方・切り方・味つけ、盛りつけ・配ぜん・試食・あとかたづけ

ウ ゆでたり、いためたりして調理ができること。

○ゆでたまごの調理 ○ゆで野菜の調理

エ 米飯及びみそ汁の調理ができること。

○伝統的な日常食 ○ごはんたき ○みそしるづくり

オ 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及びこんろの安全な取扱いができること。

○用具・食器の衛生的な使い方、安全な使い方 ○ガスこんろの安全な使い方

(1) 食事の役割について、次の事項を指導する。

ア 食事の役割を知り、日常の食事の大切さに気付くこと。

○朝食などの食事の大切さ

イ 楽しく食事をするための工夫をすること。

○楽しい食事 ○食事のマナー（食事のあいさつ・食べ方・会話など）

(2) 栄養を考えた食事について、次の事項を指導する。

ウ 1食分の献立を考えること。

○栄養のバランスのよい1食分の献立づくり

(3) 調理の基礎について、次の事項を指導する。

ア 調理に関心をもち、必要な材料の分量や手順を考えて、調理計画を立てること。

○フライパンを使った調理や、じゃがいもの調理の、調理計画、材料と分量、用具・器具・食器、調理手順

イ 材料の洗い方、切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けが適切にできること。

○フライパンを使った調理や、じゃがいもの調理の材料の洗い方・切り方・味つけ、盛りつけ・配ぜん・試食・あとかたづけ

ウ ゆでたり、いためたりして調理ができること。

○三色野菜の油いため ○スクランブルエッグ ○じゃがいもを使ったいろいろな調理

オ 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及びこんろの安全な取扱いができること。

○用具・食器の衛生的な使い方、安全な使い方 ○ガスこんろの安全な使い方

中学校技術・家庭「家庭分野」(1～3年)

備考 (内容の取扱いなど)

B 食生活と自立

(1) 中学生の食生活と栄養について、次の事項を指導する。

ア 自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康によい食習慣について考えること。

イ 栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について考えること。

(2) 日常食の献立と食品の選び方について、次の事項を指導する。

ア 食品の栄養的特質や中学生の1日に必要な食品の種類と概量について知ること。

イ 中学生の1日分の献立を考えること。

ウ 食品の品質を見分け、用途に応じて選択できること。

(3) 日常食の調理と地域の食文化について、次の事項を指導する。

ア 基礎的な日常食の調理ができること。また、安全と衛生に留意し、食品や調理用具等の適切な管理ができること。

イ 地域の食材を生かすなどの調理を通して、地域の食文化について理解すること。

ウ 食生活に関心を持ち、課題をもって日常食又は地域の食材を生かした調理などの活動について工夫し、計画を立てて実践できること。

注記： 小学校5・6年の枠囲みの下の小文字は、主な学習内容を表す。

④ (1) ア・イ

B (2)・(3)の項目ほか、アではA (2)「家庭生活と仕事」の内容、イではA (3)「家族や近隣の人々とのかかわり」の内容とも関連を図るよう配慮する。

④ (2)

B (1)・(3)の項目や給食の献立との関連を図り、日常生活に即して具体的に学習できるようにする。

④ ④ (2) ア・イ

これまで中学校で扱っていた五大栄養素を、小学校で扱うこととなった。中学校で学習する日本食品標準成分表や食事摂取基準、食品群別摂取量の目安などの学習につなげる内容として、小学校では五大栄養素の基礎的事項について扱うように配慮する。

④ ④ (3)

生の肉や魚は小学校では扱わず、中学校で取り扱う。

④ 「食育」の充実

小学校においては、家庭科などの食に関する指導を中核として、教育活動全体で一貫した取り組みを推進することが大切。

家庭科教育では、食事を大切にすること、望ましい栄養や食事のとり方、食品の品質や安全性等に関する基礎知識、調理の基礎的・基本的な知識・技能などを総合的にはぐくむ観点から推進することが必要である。

④ (1)～(3)

これらの内容の指導に当たっては、小学校で学習した「B 日常の食事と調理の基礎」の内容(1)・(2)・(3)に関する基礎的・基本的な知識と技能などを基盤にして、適切な題材を設定し、相互に関連を図って総合的に展開できるように配慮する。

④ **注記** 中学校で、二本線囲みの内容は選択事項を表す(3学年間で1または2事項を選択する)。

C 快適な衣服と住まい

(1) 衣服の着用と手入れについて、次の事項を指導する。

ア 衣服の働きが分かり、衣服に関心をもって日常着の快適な着方を工夫できること。

- あたたかい着方 ○衣服のはたらき（特に活動や安全）
- 快適な着方

イ 日常着の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯ができること。

- ボタンつけ（小物づくり）

(2) 快適な住まい方について、次の事項を指導する。

ア 住まい方に関心をもって、整理・整頓や清掃の仕方が分かり工夫できること。

- 気持ちのよい住まい方 ○整理・整頓が必要な理由 ○整理・整頓の手順 ○持ち物の分類 ○整理・整頓のくふう

イ 季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること。

- 自然を生かした住まい方 ○あたたかく明るい住まい方のくふう（採光・照明、暖ぼう器具の安全・かん気）

(3) 生活に役立つ物の製作について、次の事項を指導する。

ア 布を用いて製作する物を考え、形などを工夫し、製作計画を立てること。

- ネームプレートや小物づくりの構想・計画・手順など

イ 手縫いや、ミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作し、活用できること。

- 玉結び・玉どめ ○手ぬいのしかた ○ネームプレートや小物づくり ○ミシンぬいのしかた ○ランチョンマットやクッションなどのつくり方

ウ 製作に必要な用具の安全な取扱いができること。

- 製作に必要な用具 ○針やはさみ、アイロン、ミシンなどの使い方と安全な取り扱い

(1) 衣服の着用と手入れについて、次の事項を指導する。

ア 衣服の働きが分かり、衣服に関心をもって日常着の快適な着方を工夫できること。

- すずしい着方 ○衣服のはたらき（特に衛生上）
- 快適な着方

イ 日常着の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯ができること。

- 衣服のよごれと手入れの必要性 ○手入れの手順
- ボタンつけ ○衣服の取り扱い絵表示 ○洗たくのしかた

(2) 快適な住まい方について、次の事項を指導する。

ア 住まい方に関心をもって、整理・整頓や清掃の仕方が分かり工夫できること。

- 気持ちのよい住まい方 ○身の回りのよごれ調べ ○そうじの手順とそうじのしかた ○不用品の活用 ○ごみのしまつ

イ 季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり、快適な住まい方を工夫できること。

- 自然を生かした住まい方
- すずしい住まい方のくふう（通風、すずしく過ごすためのいろいろなくふう、エアコンや扇風機のかしこい使い方）

(3) 生活に役立つ物の製作について、次の事項を指導する。

ア 布を用いて製作する物を考え、形などを工夫し、製作計画を立てること。

- 生活を楽しくする作品づくりの構想・計画・手順など

イ 手縫いや、ミシンを用いた直線縫いにより目的に応じた縫い方を考えて製作し、活用できること。

- 生活を楽しくする作品づくり——マイバッグ、ナップザック、エプロン、まくらカバーなどのつくり方

ウ 製作に必要な用具の安全な取扱いができること。

- 製作に必要な用具 ○針やはさみ、アイロン、ミシンなどの使い方と安全な取り扱い

中学校技術・家庭「家庭分野」(1～3年)

備考 (内容の取扱いなど)

C 衣生活・住生活と自立

(1) 衣服の選択と手入れについて、次の事項を指導する。

ア 衣服と社会生活とのかかわりを理解し、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できること。

イ 衣服の計画的な活用の必要性を理解し、適切な選択ができること。

ウ 衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れができること。

(2) 住居の機能と住まい方について、次の事項を指導する。

ア 家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知ること。

イ 家族の安全を考えた室内環境の整え方を知り、快適な住まい方を工夫できること。

(3) 衣生活、住生活などの生活の工夫について、次の事項を指導する。

ア 布を用いた物の製作を通して、生活を豊かにするための工夫ができること。

イ 衣服又は住まいに関心を持ち、課題をもって衣生活又は住生活について工夫し、計画を立てて実践できること。

注記： 小学校5・6年の枠囲みの下の小文字は、主な学習内容を表す。

④ (1) ア・イ

C (2)・(3)の項目と相互に関連を図ることが考えられる。

アでは、C (2) イの事項と関連をはかり、季節の変化や住まい方に合わせてすずしい着方やあたたかい着方を考えるなど、衣服のはたらきについて日常生活と関連させて学習することも考えられる。

イの洗たくでは、D (1) と関連付けて、既製服の表示調べをしたあと洗たくの学習を行い、さらに洗たく水や洗ざいと関連づけて(2)の環境学習に発展させることも考えられる。

なお、洗ざいのはたらきは中学校で学習するので、小学校では身近な環境への影響を考えた洗ざい量などを中心に扱う。

④ (2) ア

D (2)の環境内容との関連を図って取り扱う。

④ (2) イ

前は課題選択であったが、今回は「暑さ・寒さ、通風・換気及び採光」のいずれもすべての児童に学習させることとなった。

D (2)の環境内容と関連を図って省エネルギーにつなげるなどの展開も考えられる。

④ (3)

製作題材は指定していないので、2学年間を見通して、平易なものから段階的に題材を発展させながら、基礎的・基本的な技能の定着を図るようにする。

④ (1)～(3)

これらの内容の指導に当たっては、小学校で学習した「C 快適な衣服と住まい」の内容(1)・(2)・(3)に関する基礎的・基本的な知識と技能などを基盤にして、適切な題材を設定し、相互に関連を図って総合的に展開できるように配慮する。

注記 中学校で、二本線囲みの内容は選択事項を表す(3学年間で1または2事項を選択する)。

D 身近な消費生活と環境

(1) 物や金銭の使い方と買物について、次の事項を指導する。

ア 物や金銭の大切さに気付き、計画的な使い方を考えること。

- 自分の持ち物の分類・活用
- 物やお金の使い方の見直し

イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること。

- じょうずな買い物のしかた
- マークや品質表示
- いろいろな買い方や支払い方

(2) 環境に配慮した生活の工夫について、次の事項を指導する。

ア 自分の生活と身近な環境とのかかわりに気付き、物の使い方などを工夫できること。

- ガス・水の節約、ごみの減量や分別、布地の有効な使い方、不用品の活用、かしこい買い物、節電など

(1) 物や金銭の使い方と買物について、次の事項を指導する。

イ 身近な物の選び方、買い方を考え、適切に購入できること。

- 食品の表示と選び方
- 食品の保存
- 布地の表示・取り扱い絵表示

(2) 環境に配慮した生活の工夫について、次の事項を指導する。

ア 自分の生活と身近な環境とのかかわりに気付き、物の使い方などを工夫できること。

- 不用品の活用、リサイクル・リユース、油よごれのしまつ、洗たく用洗ざいの使用量など
- 環境を考えた生活の工夫
- 地域のルールやマナー

内容の取扱い等

内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 「B 日常の食事と調理の基礎」については、次のとおり取り扱うこと。
 - ア (2) のア及びイについては、五大栄養素と食品の体内での主な働きを中心に扱うこと。
 - イ (3) のエについては、米飯やみそ汁が我が国の伝統的な日常食であることにも触れること。
 - ウ 食に関する指導については、家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮すること。
- (2) 「C 快適な衣服と住まい」の (2) のイについては、主として暑さ・寒さ、通風・換気及び採光を取り上げること。
- (3) 「D 身近な消費生活と環境」については、次のとおり取り扱うこと。
 - ア (1) のイについては、「A 家庭生活と家族」の (3)、「B 日常の食事と調理の基礎」の (3) 並びに「C 快適な衣服と住まい」の (2) 及び (3) で扱う用具や実習材料など身近な物を取り上げること。
 - イ (2) については、「B 日常の食事と調理の基礎」又は「C 快適な衣服と住まい」との関連を図り、実践的に学習できるようにすること。

実習の指導については、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 服装を整え、用具の手入れや保管を適切に行うこと。
- (2) 事故の防止に留意して、熱源や用具、機械などを取り扱うこと。
- (3) 調理に用いる食品については、生の魚や肉は扱わないなど、安全・衛生に留意すること。

家庭との連携

家庭との連携を図り、児童が身に付けた知識及び技能などを日常生活に活用するよう配慮するものとする。

言語活動の充実と家庭科

各内容の指導に当たっては、衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を伴って理解する学習活動や、自分の生活における課題を解決するために言葉や図表などを用いて生活をよりよくする方法を考えたり、説明したりするなどの学習活動が充実するよう配慮するものとする。

中学校技術・家庭「家庭分野」(1～3年)

備考 (内容の取扱いなど)

D 身近な消費生活と環境

(1) 家庭生活と消費について、次の事項を指導する。

ア 自分や家族の消費生活に関心を持ち、消費者の基本的な権利と責任について理解すること。

イ 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。

(2) 家庭生活と環境について、次の事項を指導する。

ア 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること。

注記： 小学校5・6年の枠囲みの下の小文字は、主な学習内容を表す。

㊦ (1) イ

買い物の学習では、A(3)の団らんのための買い物や、B(3)の調理の材料の選択・購入、C(2)の持ち物の見直し学習、C(3)の材料・用具の選択・購入などと関連させて展開させることが考えられる。

㊦ (2) ア

B(3)の学習との関連を図って調理実習の材料などを無駄なく使うことを考えさせたり、C(2)のごみの分別や減量のしかたを工夫させたり、C(3)の布の扱い方と関連させたりして効果的に学習を展開することが考えられる。

㊦ (1)・(2)

小学校で学習したD(1)・(2)の内容を基盤にし、中学校A・B・Cの学習と関連を図り総合的に展開できるように配慮する。

内容の取扱い

(1) 内容の「A 家族・家庭と子どもの成長」については、次のとおり取り扱うものとする。

ア(1)、(2)及び(3)については、相互に関連を図り、実習や観察、ロールプレイングなどの学習活動を中心とするよう留意すること。

イ(2)のアについては、高齢者などの地域の人々とのかかわりについても触れるよう留意すること。

ウ(3)のアについては、幼児期における周囲との基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性についても扱うこと。

(3)のウについては、幼稚園や保育所等の幼児との触れ合いができるよう留意すること。

(2) 内容の「B 食生活と自立」については、次のとおり取り扱うものとする。

ア(1)のイについては、水の働きや食物繊維についても触れること。

イ(2)のウについては、主として調理実習で用いる生鮮食品と加工食品の良否や表示を扱うこと。

ウ(3)のアについては、魚、肉、野菜を中心として扱い、基礎的な題材を取り上げること。

(3)のイについては、調理実習を中心とし、主として地域又は季節の食材を利用することの意義について扱うこと。また、地域の伝統的な行事食や郷土料理を扱うこともできること。

エ 食に関する指導については、技術・家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮すること。

(3) 内容の「C 衣生活・住生活と自立」については、次のとおり取り扱うものとする。

ア(1)のアについては、和服の基本的な着装を扱うこともできること。(1)のイについては、既製服の表示と選択に当たっての留意事項を扱うこと。(1)のウについては、日常着の手入れは主として洗濯と補修を扱うこと。

イ(2)のアについては、簡単な図などによる住空間の構想を扱うこと。

ウ(3)のアについては、(1)のウとの関連を図り、主として補修の技術を生かしてできる製作品を扱うこと。

(4) 内容の「D 身近な消費生活と環境」については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 内容の「A 家族・家庭と子どもの成長」、「B 食生活と自立」又は「C 衣生活・住生活と自立」の学習との関連を図り、実践的に学習できるようにすること。

イ(1)については、中学生の身近な消費行動と関連させて扱うこと。

小学校家庭と中学校技術・家庭「家庭分野」連携の指導実践例

小学校 家庭 / 「こんだてづくり」

1. 題材名 「工夫しよう きょうのごはん」

2. 題材の目標

- (1) 栄養的なバランスを考えて、食べ物を組み合わせるの必要性を理解する。
- (2) 家族のために、栄養的にバランスのよい1食分の食事を計画し、家族の喜ぶおかずを工夫して調理する。
- (3) 食事には、ふれ合いを深めるはたらきがあることを理解し、楽しい食事にするために工夫する。

【評価規準】

関心・意欲・態度	創意工夫	生活の技能	知識・理解
自分の食生活を振り返り、家族に喜ばれるおかずをつくらることができる。	食品を組み合わせて、家族が喜ぶおかずを工夫してつくることことができる。	これまでの学習を生かし、調理実習計画を立て、安全に気をつけて調理することができる。	食品の選び方やいろいろな調理のしかたを理解できる。

3. 題材について

- 心身ともに健康的な食生活を営むためには、食べたい物を食べたい分だけ食べるのではなく、栄養的にバランスのとれた食事をとることが大切である。このことを繰り返し学習し、よりよい食生活を送るために、自分自身で実行する力を身につけさせる。
- 食品の選び方やいろいろな調理のしかたについては、5年生から6年生の1学期に繰り返し学習してきた食品の体内での3つのはたらきについて振り返りながら、新学習指導要領改定のポイントにもなっている5大栄養素の理解を深める題材となる。栄養のバランスを考えた1食分の食事を計画することは、小学校の2年間の家庭科学習のまとめとなるが、中学1年生で学習する1日分の献立づくりの学習へのつながりを強く意識し、1日の食生活の中の1食分として扱う。

4. 題材における児童の実態

食生活について積極的に関わる姿勢がよく表れており、自己の生活の様子を振り返り、学習につなげ、また授業で学習したことを生かして自己の生活の向上を目指す児童が多い。家庭生活への関心・意欲は全体的に高いが、生活の技能については、家庭で実践する機会が多い児童と少ない児童との間に習熟の違いがあるため、特に技能の指導については、学習内容の重複に配慮し、スパイラルに学習する指導内容として重視したいと考え、この題材を設定した。

5. 本時の研究主題との関連 ～主題に迫るための手だて～

(1) 問題解決型の学習の確立

- 一人ひとりの思考からグループの思考へ

1食分の献立を考える時に、まず個々に考え、一人ひとりの思考を表す過程を設定する。個々に考えた献立を持ち寄り、グループの中で複数の献立から組み合わせる時に重要なポイントや、できれば意識したいポイントなど

中学校 技術・家庭「家庭分野」／「献立づくり」

1. 題材名 「バランスのとれた食生活を考えよう」

2. 題材の目標

- (1) 自分の食生活に関心を持ち、生活の中で食事が果たす役割を理解し、健康によい食習慣を育てる。
- (2) 栄養素の種類と働きを知り、中学生に必要な栄養の特徴について考えさせ、1日分の献立が作成できる力身につける。
- (3) 食品の選択と日常食の調理の基礎を身につける。

【評価規準】

関心・意欲・態度	創意工夫	生活の技能	知識・理解
自分の食生活を振り返り、栄養のバランスのとれた献立をつくることができる。	一汁三菜を土台として、食品を組み合わせて、1日分の献立をつくることができる。	調理実習計画を立てて、安全に衛生的に、また協力して調理をすることができる。	食事や栄養素の働きを理解して、バランスのとれた献立作成ができ、調理方法を理解できる。

3. 題材について

- 生活の中で食事が果たす役割や健康と食事とのかかわりを知り、小学校におけるバランスのよい食事のとり方についての学習を発展させ、食品に含まれる栄養素の種類と働き、中学校の時期の栄養の特徴について理解できるようにする。
- 献立作成の手順を理解させ、1日分の献立を考えることにより、自分の食生活を振り返り、問題点を発見させて改善をはかれるようにする。
- 食品の性質を知り、食品カードを使って視覚的に食品を組み合わせ、栄養のバランスをとる工夫をする。

4. 題材における生徒の実態

食生活に興味・関心はあっても、単に見た目・味・流行・簡便性を求め、実際に中学生に必要な栄養や献立作成などには関心が低い。そのため、自校式の給食であっても好きなもののみを食べ、嫌いなものは残す生徒も少なくない。栄養素・ダイエット・メタボ・・・などの言葉は知っていても、自分の食生活の中に実際どういう問題や改善点があるのかなど、深く考えようとしていない生徒が多い。近隣で畑も営む農家が多く、1学期には「農業体験」も行うことができた。野菜の旬のわかる恵まれた地域の中で栄養の学習を行うことは有効であると考え、この題材を設定した。

5. 本時の研究主題との関連 ～主題に迫るための手だて～

(1) 問題解決型の学習の確立

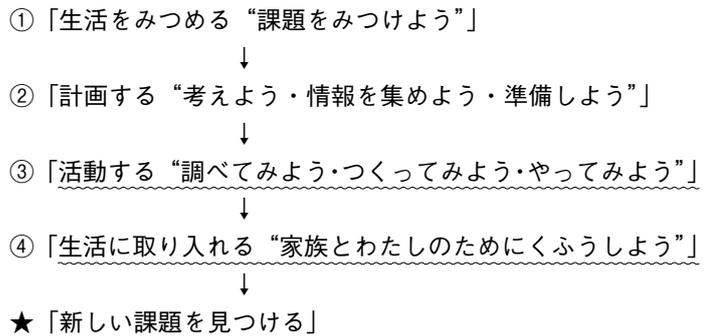
- 生徒一人ひとりの食生活の課題を見つけ出し、解決のための手立てを理解させる。
- 学校の給食という共通項から「朝食」「夕食」の献立に発展させる。
- 授業で献立表をつくらせ、家庭の中に持ちかえり、日常の食事のとり方を振り返らせる。

話し合い、よい点を融合するグループでの思考につなげる。

○授業と家庭生活との結びつき

家庭科の学習の流れは、①～④の段階で進み、スパイラルにくり返し、よりよい家庭生活を目指す。4つの段階の中で、特に③から④の結びつきを重視した授業の組み立てとし、家庭生活における実践力の育成を目指す。

家庭科の学習の流れ



(2) 個に応じる指導の徹底

☆手にとって操作できる料理カードの活用

1食分の食事を考えるための教材として料理カードを活用する。料理カードは、実物大の写真でつくられており、カードを並べることで食卓に料理を並べた時の様子をイメージすることができる。カードを操作することにより、組み合わせを試行錯誤することもでき、家庭実践の経験が少ない児童に個別の支援をする教材としても適切と考える。

(3) 伝え合い、考えを深め合う学習

☆一人ひとりの生活からつながる発想の共有化

児童の生活実態にはそれぞれ違いがある。その違いが個々に考えた献立に表れる。そこに表れる特徴・発想をグループで思考する過程で伝え合い、考えを深め合う学習によって共有化することができ、児童が自分の生活に取り入れる知識や技能、工夫を豊かにすることにつながると考える。

☆実物投影機の活用

グループで考えた1食分の献立を他のグループの児童たちに視覚的にとらえやすいように、実物投影機を用いて発表する。児童は他のグループの発表を、献立カードで示した組み合わせを聞きながら実際の食事としてイメージしやすく、組み合わせのよさへの気づきをふくらませることができると考える。

6. 学習指導計画（全 13 時間）

○食べ物の組み合わせを考えよう（2 時間）

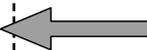
- ・食品カードを分類して、栄養素を確認する。
- ・食品を組み合わせで料理すること、料理を組み合わせで食事をつくることを確認する。

○家族の喜ぶおかずをつくろう（9 時間）

- ・料理カードを使って、1食分の食事の組み合わせを一人ひとりが考える。
- ・班で、自分と友だちのこんだての特徴を知り合い、1食分のこんだてを考える時の視点を挙げる。
- ・バランスのよい1食分のこんだてを考える…本時(3)
- ・グループで1食分の食事づくりをする計画を立てる。(2) ・家庭実践①の計画を立てる。＜家庭実践＞
- ・グループで1食分の食事づくりをする。(2) ・家庭実践①の報告会をする。

○楽しい食事をくふうしよう（2 時間）

- ・友だちの家庭実践①の報告から自分でも家族のためにつくってみたい献立を見つけ、家庭実践②の計画を立てる。＜家庭実践＞
- ・家庭実践②の報告会をし、食事のはたらきについての視点をまとめる。



(2) 個に応じる指導の徹底

☆給食の献立の活用

給食の献立の中に入っている食材の種類や栄養・旬などを理解し、献立表を完成させる。

給食を例にして、一汁三菜の組み合わせをするとバランスがとりやすいということを、朝食・夕食のそれぞれで作成させる。

☆料理カードの活用

献立作成を行う教材として料理カードを活用し、個別に献立をつくらせて表に書き込ませる。

小学校で料理カードは使った経験があるので、中学校ではカードの写真裏面の旬や調理時間、費用なども考慮させる。

☆自己評価のための指導・助言

自分の1日分の献立を自己評価できるように指導・助言を行う。

(3) 伝え合い、考えを深め合う学習

☆グループでの意見交換

少人数のグループで意見を交換し合い、自己評価・他己評価をし、工夫や着眼点の違いに気づかせる。

☆実物投影機などの ICT 機器の利用

グループで「理想的な食事」をつくり発表し合う。

6. 学習指導計画（全 17 時間）

時	主な学習活動	評価方法
1	食事の役割について	・プリント
2	栄養素の種類とはたらきについて	・ノート
3	食品に含まれる栄養素・食品成分表・6つの食品群	・発言
4	中学生に必要な栄養・食事摂取基準	・テスト
5	献立の立て方（バランスのよい食事）・・・本時	
6	献立表の作成	
7	調理室の使い方・用具の取り扱い方	・実技作品
8	調理実習（2回・6時間：準備・まとめ含む）	・プリント
↓	・野菜を用いた調理	・食生活ノート
14	・肉・魚を用いた調理	
17	食品の選び方（3時間）	

7. 本時の学習

(1) 目標

- ・栄養や食文化などのバランスがよい1食分の食べ物の組み合わせを考える。

(2) 展開

過程	学習活動 (T: 主な発問, C: 予想される児童の反応)	□: 指導上の留意点 / ◎: 評価
課題把握 5分	<p>1. 食品を組み合わせる視点を振り返る</p> <p>T: 前回の授業では、グループで1食分の食事の献立を考えました。グループの友だちとどんなことに気をつけて組み合わせましたか。</p> <p>C: 栄養のバランスに気をつけました。</p> <p>C: 和食、洋食など料理の種類を考えて組み合わせました。</p> <p>C: 献立カードに書いてあるかみごたえを意識しました。</p> <p>C: 多すぎず、少なすぎないように、量のバランスを考えました。</p>	<p>□前時に児童が挙げた視点に、食品カードの分類など、これまでの学習で出ていた栄養に関する視点をていねいに確認する。</p>
解決の計画・解決の実行 30分	<p>2. 前時に考えた1食分の組み合わせと、特徴を確認する</p> <p>T: これから、前回の授業でそれぞれのグループで考えた1食分の組み合わせを見せます。組み合わせのよいところをみつけましょう。</p> <p>C: さっぱりしたものを選んでいて、食べやすそうでいいです。</p> <p>C: 和風でそろえて組み合わせることができています。</p> <p>C: 見た目の色合いがよくて、食欲がわきそうです。</p> <p>3. 他の班からのアドバイスをもとに、バランスのよい食事を考える</p> <p>T: 自分のグループで考えた1食分の組み合わせについて、気をつけたことを友だちにも気づいてもらえましたか？他のグループのよさも取り入れながら、「主食」、「主菜」、「副菜」、「もう1品」の組み合わせを見直してみましょう。</p> <p>C: 和風と洋風と混ざっていたので、どちらかにまとめようと思います。</p> <p>C: 欲張っていろいろな料理を選んで多すぎたと思います。食べられるくらいの量になるように考えます。</p> <p>C: もっと栄養バランスのよさをアピールできるような組み合わせにしたいです。1品の料理でもたくさんの食品を使っているような料理を探します。</p> <p>C: パパッとつくれる食事になるように、調理時間のことも考えながら組み合わせを見直したいです。</p>	<p>□児童が考える組み合わせのよさを挙げて、様々な視点を全体にひろげる。紹介する組み合わせを考えたグループとは別のグループの児童を指名し、他のグループのよさをみつけさせる。</p> <p>◎1食分の組み合わせのよさをみつけることができるか。</p> <p>□「栄養のバランス」「色合いのバランス」「和食・洋食など食文化のバランス」「調理方法のバランス」など、様々なバランスを意識して考えられるようにする。</p> <p>□自分の日常生活を思い出しながら考えるように支援する。</p> <p>□カードの分量について、それぞれ1人分であることをおさえる。</p> <p>□一人ひとりの生活からつながる発想を共有しながら組み合わせを考え、伝え合い、考えを深め合う学びになるように支援する。</p>

7. 本時の学習

(1) 目標

- ・給食の栄養バランスを理解できる。
- ・食事カードを使って、バランスのとれた朝食と夕食の献立をつくることができる。
- ・1日分の献立として組み合わせを考える。

(2) 展開

過程	学習活動 (T: 主な発問, S: 予想される生徒の反応)	□: 指導上の留意点 / ◎: 評価
課題把握 10分	<p>T: 献立をつくる手順は何ですか。</p> <p>S: ①主食 ②主菜 ③副菜 ④汁物・飲み物</p> <p>T: それでは今日の給食の献立を当てはめてみましょう。</p> <p>S: 板書をワークシートに写す。</p> <p>T: 給食の食材を思い出して食品群に分類してみましょう。</p> <p>S: 献立表に記入・食品群に分類する。</p>	<p>□給食の献立には6つの食品群全てが入っていることに気づかせる。</p> <p>□給食のトレーに入れた食器から一汁三菜を理解させる。</p> <p>□ワークシート・献立表の工夫</p> <p>◎関心・意欲／発表</p> <p>知識・理解／ワークシート</p>
解決の計画・解決の実行 30分	<p>T: 昼食は給食として、朝食・夕食の2食を考えてみましょう。 班ごとに「食品カード」を使ってつくりましょう。 考慮するのは・・・ ・栄養 ・組み合わせ ・分量などの「バランス」です</p> <p>S: テーブルを班体制にして取り組む。</p> <p>T: 班ごとに代表者は朝・夕の献立を発表してください。 工夫したところ(ポイント)を必ず入れるようにしてください。 聞く人は発表した班のよいところをみつけてください。</p> <p>S: 1班から順に投影機を使って発表する。</p> <p>S: ワークシートに記入して自分の班にはないポイントに気づく。</p>	<p>□班の中で朝・夕の2つのグループに分けて意見を交換させる。その際に食品カードを和・洋に分けるなどの工夫をさせる。</p> <p>□同じ食品を使っても組み合わせで変化することを比較させる。</p> <p>□一人ひとりの生活からつながる発想を共有しながら、組み合わせを考え伝え合い、深められるような支援をする。</p> <p>□実物投影機を使い、意見交換がスムーズにいくように工夫する。</p> <p>◎関心・意欲／話し合い・発表</p> <p>工夫／一汁三菜の組み合わせ他</p> <p>知識・理解／プリントワーク</p>

	<p>4. 話し合った内容を発表する</p> <p>T：グループごとに考えを深めることができていましたね。他のグループのよいところを上手に取り入れて考えたグループや、ユニークなアイデアで組み合わせをよりよく考えたグループの献立を紹介します。発表するグループは、自分たちが考えた組み合わせのよいところをしっかりアピールしましょう。</p> <p>C：食欲がわくような見た目の色合いと、さっぱりした味でたくさん食べられるような料理を選んでしっかり栄養補給をできるように考えました。</p> <p>C：みんなは、家で家族から「野菜をたくさん食べるように」といつも言われているので、ビタミンを多くとれるように、使っている食品を確かめながら組み合わせを考えました。</p> <p>C：自分たちでもつくれるような組み合わせにしようと相談しました。調理時間が短い料理を選んだので、かんたんにつくれそうです。</p>	<p><input type="checkbox"/>複数の視点で話し合った班、他には出ていない視点を挙げている班を指名して発表させる。</p> <p><input type="checkbox"/>実物投影機を使い、発表する班の料理カードを全体で見られるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/>自分の生活につながるような食事かどうかを考えながら発表を聞くように助言する。</p>
<p>ま と め 10 分</p>	<p>5. 本時で学んだことを振り返る</p> <p>T：1食分の組み合わせを考えるために、いろいろな視点があってよりよい組み合わせを考えることができましたね。組み合わせを考える時に意識したいポイントを確認しましょう。</p> <p>C：いちばん気をつけたいのは、栄養のバランスです。</p> <p>C：食欲がわくような、見た目の色合いが大切だと思います。</p> <p>C：和風、洋風など、料理の種類をそろえるとおいしさが引き立つと思います。</p> <p>C：食べる人の好みも意識して考えたいです。</p> <p>C：つくりやすいかどうかも考えて組み合わせを考えたいです。</p> <p>T：考えた組み合わせを、ぜひみなさんの生活の中で生かしていきましょう。栄養などのバランスがよい食事づくりを考えることももちろん大切ですが、つくる力も身につけたいですね。次の時間には1食分の食事づくりに向けて、調理実習の計画を立てます。</p>	<p>◎既習内容や自分の生活経験をもとにして様々なバランスのよさを意識し、主食やおかずの組み合わせ方を考えているか。</p>

<p>ま と め 10 分</p>	<p>T：各自の献立表を仕上げてください。</p> <p>発表から気づいたことも取り入れて、今日の給食に合わせた朝食・夕食はどんな献立がよいかまとめてみましょう。</p> <p>S：自分の班，他の班の長所を取り入れながら，個人個人で1日分の献立をつくり上げる。</p> <p>S：献立表・ワークシートをまとめて提出する。</p>	<p><input type="checkbox"/>発表時間は班の進行具合で区切るが，全ての班を一巡させる。</p> <p>◎技能／献立作成（既習内容を理解してバランスのよい献立を立てることができるか）</p>

新学習指導要領対応

はじめての家庭科指導

■価格 2,100円(本体2,000円) B5判/112ページ

構成

- 家庭科指導の経験が浅い先生、久々に家庭科の授業を受け持たれる先生方の不安を解消するための、家庭科指導入門書。先輩の先生方の懇切丁寧な解説やアドバイスを満載。
- 実習や製作については、事前準備や短期間で効率的に進めるためのポイントなどを具体的に解説しています。

- 「家庭科ってこんな教科です」
- 「はじめての家庭科の授業」
- 「家庭科指導Q&A」
- 「家庭科の基礎知識」



基礎・基本が身につく、かんたんにできる 布を使った作品集

■価格 1,890円(本体1,800円) B5判/64ページ(カラー32ページ)

- 被服製作はちょっと苦手という先生や、家庭科は初めてという先生にも、自信をもって被服製作の指導に取り組んでいただけるように、授業の準備のしかたや保護者への通信例など、被服製作指導の初歩から解説した手引き書。
- 基本的なものから応用・発展的なものまで豊富な作品例(16例/製作時間は各2~6時間)をカラー写真とイラストで紹介。ベテランの先生方にも、実習例選択のヒントとして活用していただけます。
- 新学習指導要領にも対応しています。

●長期休みのワークとして最適

早ね早おき朝ごはん日記

■価格 150円(税込み) A5判/32ページ
カラーシール付き/1週間区切りで2週間分

- 生活リズムと栄養バランスの大切さがわかる、子どもたちの気づきを促す「食育」日記。
- 生活時間と、食べたものの食品分類のシールを貼って楽しく記録。食品の分類も身につきます。
- 朝ごはんや生活リズムの大切さがわかる豆知識つき。



新学習指導要領を読み解く

よくわかる 小学校家庭科 学習指導要領 ビジュアル解説

授業への生かし方

■監修 櫻井純子/内野紀子/鳴海多恵子
■定価 2,415円(本体2,300円) B5判/128ページ

- 新学習指導要領の各内容のポイントとなる箇所や補足すべき箇所等について、授業のイメージがわく題材や展開例・資料を交えて丁寧な解説した決定版。「先輩教師のアドバイス」も掲載。

好評
発売中

小学校家庭科教授用資料 AJ



開隆堂出版株式会社 <http://www.kairyudo.co.jp>

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1丁目13番1号 TEL.03-5684-6111 [代表] / 03-5684-6116 [編集]
 北海道支社 〒060-0061 札幌市中央区南一条西6-11 札幌北辰ビル8階 TEL.011-231-0403
 東北支社 〒983-0043 仙台市宮城野区萩野町1-11-1 萩野町Mビル2階 TEL.022-782-8511
 名古屋支社 〒464-0802 名古屋市千種区星が丘元町14-4 星ヶ丘プラザビル6階 TEL.052-789-1741
 大阪支社 〒550-0013 大阪市西区新町2-10-16 TEL.06-6531-5782
 九州支社 〒810-0075 福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3階 TEL.092-733-0174